

保育士のパネルシアターおよびエプロンシアターへの意識について

熊 田 武 司

A consciousness survey of nursery teachers about panel theaters and apron theaters.

Takeshi Kumada

Summary

How does the nursery teacher use puppet shows as child care teaching material? Why are panel theaters and apron theaters not used? An investigation of nursery teacher's the practice such as puppet shows was made, and it was clarified the position of panel theaters and apron theaters in child care.

Most nursery teachers recognize that panel theaters and apron theaters are necessary in child care. However, panel theaters and apron theaters are hardly actually used in child care. The reason is "There is no time for practice", "There is neither a place nor a chance to perform", "We don't own any puppets", and "We don't know how to perform panel theaters and apron theaters".

Therefore, it is necessary to examine how to help nursery teachers to practice puppet shows. In future tasks we should search for methods to spread puppet shows in child care, and to examine how puppet shows can be placed in child care.

Key words : Puppet play, Panel theater, Apron theater, The nursery teacher's consideration, Childcare teaching materials

I はじめに

幼児は、人形に対して非常に興味を示す。さらに、幼児は人形を擬人化し、想像的同一化をして物語の世界に入り込むといった経験をしながら、一種の生活経験をしている。したがって、人形劇は、演劇の鑑賞力や創造力を養うだけでなく、生活経験を拡大することのできる総合的経験であると考えることができるのである。その中で、一人でも演じることができるパネルシアターおよびエプロンシアターは、手軽に演じることのできる人形劇の一つであると考えられる。

そこで、パネルシアターおよびエプロンシアターは、日常保育に多く取り入れられていると予測し、「保育士におけるパネルシアターおよびエプロンシアターの実践について」(熊田, 2010, b)において、岐阜市内の保育所で人形劇の実践のひとつとして行われているパネルシアターおよびエプロンシアターの実践状況を明らかにした。その結果、パネルシアターおよびエプロンシアターは、保育の中で実践されることが非常に少ないことが明らかになった。実践回数が少ない

原因としては、パネルシアターおよびエプロンシアターを所有していないこと、練習する時間が確保できないことなどが考えられるのである。

本研究においては、保育士はパネルシアターおよびエプロンシアターを保育教材としてどのように捉えているのか、なぜパネルシアターおよびエプロンシアターを実践することができないのかなど、人形劇等の実践に対する保育士の意識調査を行い、「保育士におけるパネルシアターおよびエプロンシアターの実践について」（熊田、2010. b）の結果との関係を分析することで、パネルシアターおよびエプロンシアターが保育の中でどのような位置にあるのかを明らかにしたい。

そこで、保育士が人形劇の実践に関してどのような意識を持っているのかを調査した（熊田、2010. a）結果の一部を使用し、エプロンシアターおよびパネルシアターの実践に対する意識について考察するものである。

II 調査方法

1 対象

岐阜市内の認可保育所（園）である公立保育所29園・私立保育園19園、合計48園に勤務する保育士（正規職員、嘱託職員、臨時職員）692人を対象とした。

2 方法

岐阜市保育事業課の許可を得て、平成20年11月11日に保育事業課から各保育所（園）長をとおして保育士に調査用紙を配布し、保育事業課をとおして11月26日に回収した。

3 内容

人形劇の必要性、人形の所有、人形劇の演技、人形劇の効果に関する保育士の意識について調査した。

- (1) 対象者の属性について（2項目）
- (2) ストーリーのある人形劇について（11項目）
- (3) 人形を使つての対話について（6項目）
- (4) パネルシアターについて（10項目）
- (5) エプロンシアターについて（10項目）

以上のうち、今回は(4)(5)の調査結果を使用し、パネルシアターおよびエプロンシアターに対する意識について考察するものとした。

III 結果

1 対象者の属性について

保育士における人形劇の実践について(Ⅱ)―岐阜市内の保育士を対象にした人形劇に対する意識調査から―（熊田、2010. a）と同時調査である。

調査対象者692人に対して、有効回答数は575人（有効回収率83.1%）であった。

対象者の勤続年数は、1年目は8.0%（46人）、2年目は5.6%（32人）、3年目は7.3%（42人）、4年目～10年目は37.9%（218人）、11年目～20年目は14.4%（83人）、21年目～30年目は11.7%（67人）、31年目以上は15.1%（87人）であった。

2 パネルシアターに対する意識調査について

(1) パネルシアターの必要性

「担当する子どもにとってパネルシアターは保育教材として必要だと思いますか」という問に対して、とても必要であると回答したのは23.0%（132人）、必要であると回答したのは70.4%（405人）であり、保育士の93.4%がパネルシアターは保育教材として必要であると認識しているという結果であった。これに対して、ほとんど必要ないと回答したのは4.5%（26人）、必要ないと回答したのは0.7%（4人）という結果であった。（図1）

また、「パネルシアターを所有していますか」という問に対して、所有していると回答したのは65.7%（378人）であり、所有していないと回答したのは33.4%（192人）、無回答0.9%（5人）であり、保育士の約2/3がパネルシアターを所有しているという結果であった。（図2）

さらに、勤続年数別のパネルシアターの所有状況は、所有していると回答したのが勤続1年目は44.4%（20人）、2年目は58.1%（18人）、3年目は47.6%（20人）、4～10年目は59.3%（128人）、11～20年目は70.7%（58人）、21～30年目は83.6%（56人）、31年以上は89.7%（78人）という結果であった。

(2) 勤続年数とパネルシアターの必要性との関係

勤続年数とパネルシアターの必要性（図3）から、4～10年目の保育士を除くすべての年代で、約95.0%がパネルシアターは保育教材として必要であると考えていることがわかる。特に、1年目の保育士の30.4%が、パネルシアターは保育教材としてとても必要であると考えているという結果であった。また、各年代においてパネルシアターの必要性に対する意識には、ほとんど差異が無いという結果であった。

(3) 担当クラスとパネルシアターの必要性との関係

担当クラスとパネルシアターの必要性（図4）から、0歳児、1歳児を除くクラス担当保育士の90.0%以上が、パネルシアターは保育教材として必要であると考えていることがわかる。特に、所長・園長は必要であると回答したのが100.0%であるという結果であった。0歳児担当保育士においては、とても必要であると回答したのは18.6%（8人）であり、必要であると回答したのは62.8%（27人）であり、ほとんど必要ない、必要ないと回答したのは18.7%（8人）という結果であった。1歳児担当保育士においては、とても必要であると回答したのは19.4%（18人）であり、必要であると回答したのは69.9%（65人）であり、ほとんど必要ない、必要ないと回答したのは10.8%（10人）という結果であった。

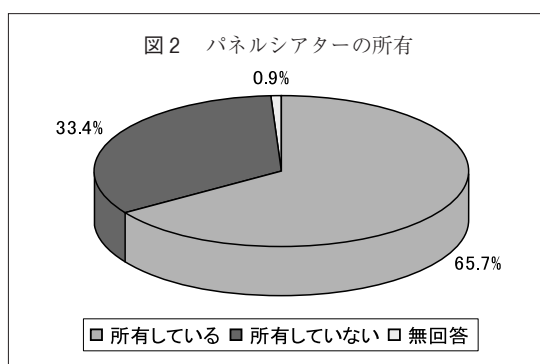
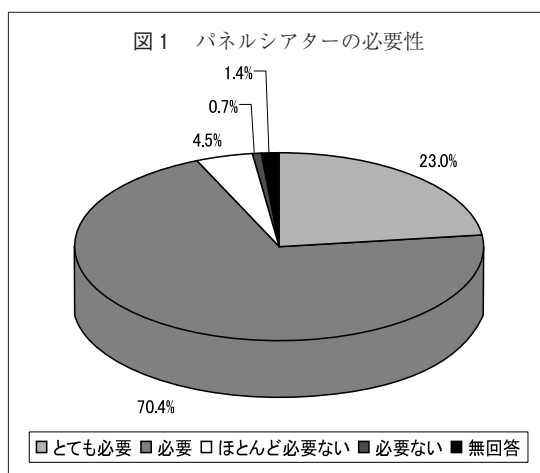


図3 勤続年数とパネルシアターの必要性

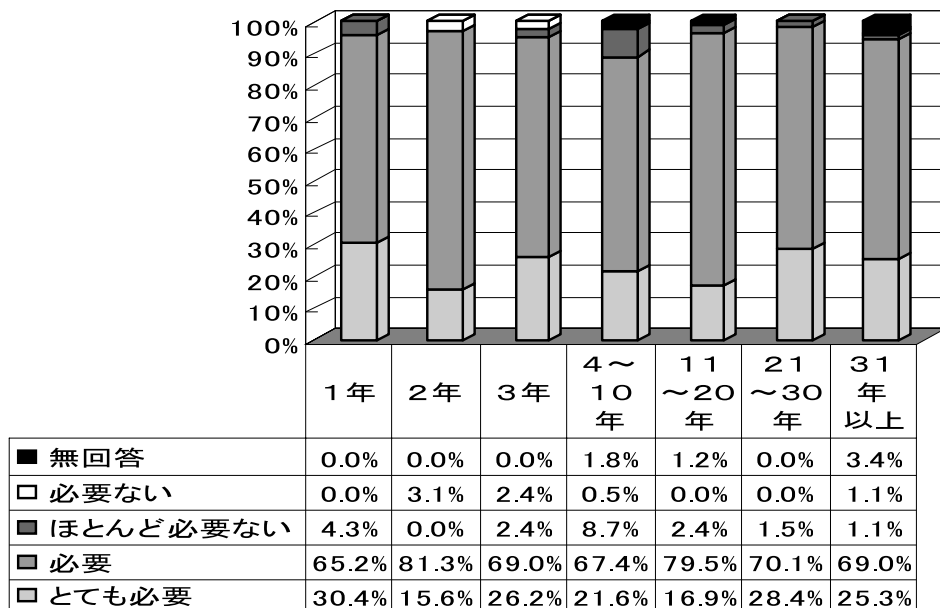
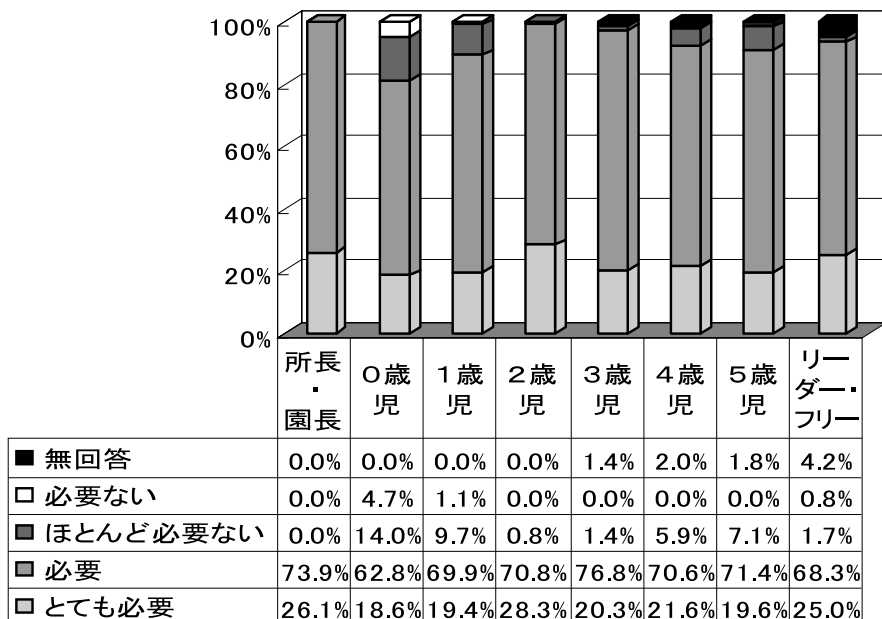


図4 担当クラスとパネルシアターの必要性



(4) パネルシアターの子どもに対する効果

「子どもにとってパネルシアターにはどんな効果があると思いますか」という問に対して、次の17項目の中から効果の高い順に5項目を選択してもらった。

選択された結果に対して、1位5p、2位4p、3位3p、4位2p、5位1pを付加して得点を算出したところ、最も得点の高かったのは、1A項目1811pという結果であった。そして、1D項目1563p、1B項目808p、1H項目717p、1C項目675pと続き、最も得点の低かったのは、1P項目2pという結果であった。

- 1 A. 物語・歌などへの興味を養うことができる。(1811p)
- 1 B. 模倣活動を楽しみ、ごっこ遊び・劇遊びにつなげることができる。(808p)
- 1 C. パネルシアターの人形を擬人化し、自分と同化することで、物語の世界を楽しむことができる。(675p)
- 1 D. パネルシアターを使うことで、物語・歌などの内容や面白さを楽しむことができる。(1563p)
- 1 E. 子どもと保育士との信頼関係を築くことができる。(324p)
- 1 F. 子どもの感受性を養うことができる。(658p)
- 1 G. 子どもの創造力を養うことができる。(294p)
- 1 H. 子どもの想像力を養うことができる。(717p)
- 1 I. 子どもの道徳性を養うことができる。(81p)
- 1 J. 子どもの思考力を養うことができる。(226p)
- 1 K. 子どもの自発性を養うことができる。(25p)
- 1 L. 子どもの表現力を養うことができる。(325p)
- 1 M. 子どもの情緒を安定させることができる。(288p)
- 1 N. 子どもの情操教育になる。(157p)
- 1 O. 子どもの言葉の発達につながる。(292p)
- 1 P. 効果はない。(2p)
- 1 Q. その他(4p)

(5) パネルシアターを演じられるか

「パネルシアターが演じられますか」という問に対して、演じられると回答したのは83.8%(482人)、演じられないと回答したのは3.8%(22人)であり、わからないと回答したのは10.3%(59人)という結果であった。(図5)

勤続年数とパネルシアターが演じられるか(図6)から、3年目以上の保育士は80.0%以上が演じられると回答し、21年以上の保育士では90.0%以上が演じられるという結果が得られた。パネルシアターを演じられない割合は、どの年代も極少数であるという結果であった。また、1年目・2年目の保育士の約20.0%がわからないと回答しているという結果であった。

「演じることができる理由」という問に対して、次の8項目の中から理由の大きい順に3項目を選択してもらった。選択された結果に対して、1位3p、2位2p、3位1pを付加して得点を算出したところ、最も得点の高かったのは、2B項目1248pという結果であった。そして、2G項目464p、2D項目381pと続き、最

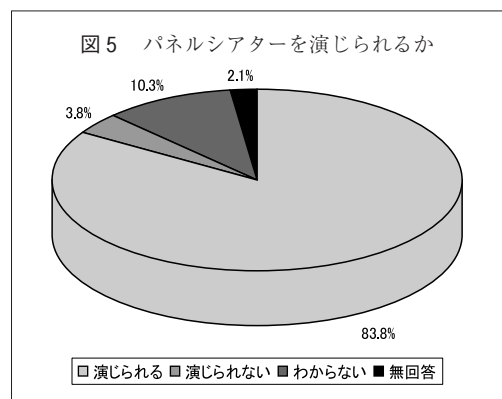
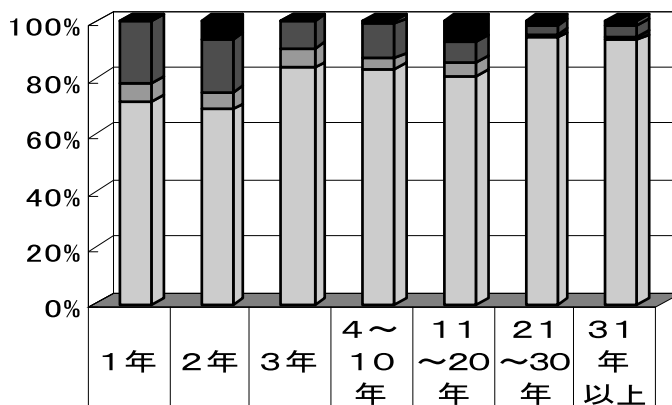


図6 勤続年数とパネルシアターを演じられるか



| | | | | | | | |
|----------|------|------|------|------|------|------|------|
| ■ 無回答 | 0.0% | 6.3% | 0.0% | 0.9% | 7.2% | 1.5% | 1.1% |
| ■ わからない | 21.7 | 18.8 | 9.5% | 12.4 | 7.2% | 3.0% | 4.6% |
| ■ 演じられない | 6.5% | 6.3% | 7.1% | 3.7% | 4.8% | 1.5% | 1.1% |
| □ 演じられる | 71.7 | 68.8 | 83.3 | 83.0 | 80.7 | 94.0 | 93.1 |

も得点の低かったのは、2 C 項目97p という結果であった。

- 2 A. 自分自身がパネルシアターを楽しみたいから。(310p)
- 2 B. パネルシアターで子どもを楽しませたいから。(1248p)
- 2 C. 子どもにとって保育士が身近な存在だから。(97p)
- 2 D. 行事の出し物を担当するから。(381p)
- 2 E. 自分のパネルシアターを持っているから。(259p)
- 2 F. 保育所（園）がパネルシアターを所有しているから。(126p)
- 2 G. 保育士がパネルシアターを演じることで、子どもが物語を身近に感じられるから。(464p)
- 2 H. その他（16p）

「なぜパネルシアターを演じることができないのですか」という問に対して、次の7項目の中から理由の大きい順に3項目を選択してもらった。選択された結果に対して、1位3p、2位2p、3位1p、を付加して得点を算出したところ、最も得点の高かったのは、3 A 項目174p という結果であった。そして、3 B 項目108p、3 E 項目74p と続き、最も得点の低かったのは、3 C 項目41p という結果であった。

- 3 A. 練習する時間を確保できないから。(174p)
- 3 B. 演じる場所・機会がないから。(108p)
- 3 C. 演じることが恥ずかしいから。(41p)
- 3 D. 台詞や歌を覚えることができないから。(47p)
- 3 E. 自分も保育所（園）もパネルシアターを所有していないから。(74p)
- 3 F. パネルシアターの演じ方を知らないから。(48p)
- 3 G. その他（21p）

(6) どうしたらパネルシアターを演じることができるか

「どうしたらパネルシアターを演じることができると思いますか」という問に対して、次の5項目の中から理由の大きい順に3項目を選択してもらった。選択された結果に対して、1位3p、2位2p、3位1pを付加して得点を算出したところ、最も得点の高かったのは、4A項目625pという結果であった。続いて、4C項目484p、4B項目436pという結果であった。

- 4 A. 講習会等でパネルシアターの演じ方を学ぶ。(625p)
- 4 B. 自分または保育所(園)がパネルシアターを所有する。(436p)
- 4 C. 練習時間を確保する。(484p)
- 4 D. 演じる場所・機会を与えてもらう。(330p)
- 4 E. その他(33p)

3 エプロンシアターに対する意識調査について

(1) エプロンシアターの必要性

「担当する子どもにとってエプロンシアターは保育教材として必要だと思いますか」という問に対して、とても必要であると回答したのは19.7%(113人)、必要であると回答したのは71.7%(412人)であり、保育士の91.4%がエプロンシアターは保育教材として必要であると認識しているという結果であった。これに対して、ほとんど必要ないと回答したのは5.4%(31人)、必要ないと回答したのは0.9%(5人)という結果であった。(図7)

また、「エプロンシアターを所有していますか」という問に対して、所有していると回答したのは54.4%(313人)であり、所有していないと回答したのは42.6%(245人)、無回答3.0%(17人)であり、保育士の約半数がエプロンシアターを所有しているという結果であった。(図8)

さらに、勤続年数別のエプロンシアターの所有状況は、所有していると回答したのが勤続1年目は19.6%(9人)、2年目は33.3%(7人)、3年目は25.0%(10人)、4～10年目は52.4%(110人)、11～20年目は63.0%(51人)、21～30年目は81.5%(53人)、31年以上は85.9%(73人)という結果であった。

(2) 勤続年数とエプロンシアターの必要性との関係

勤続年数とエプロンシアターの必要性(図9)から、すべての年代の保育士の85.0%以上が、

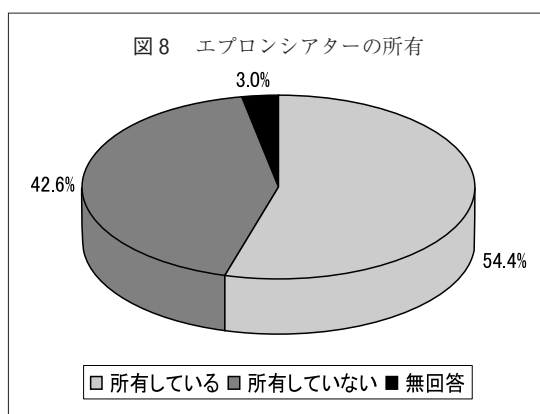
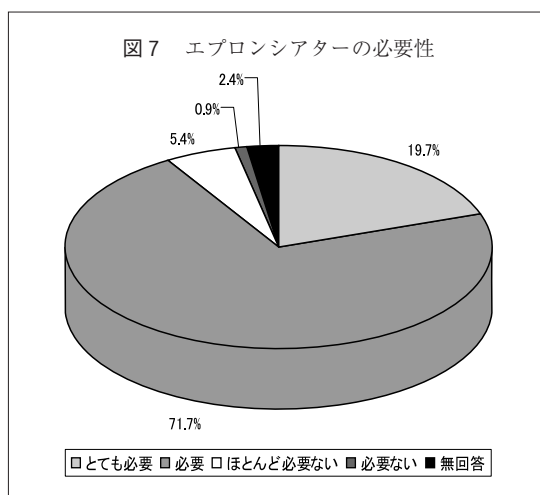
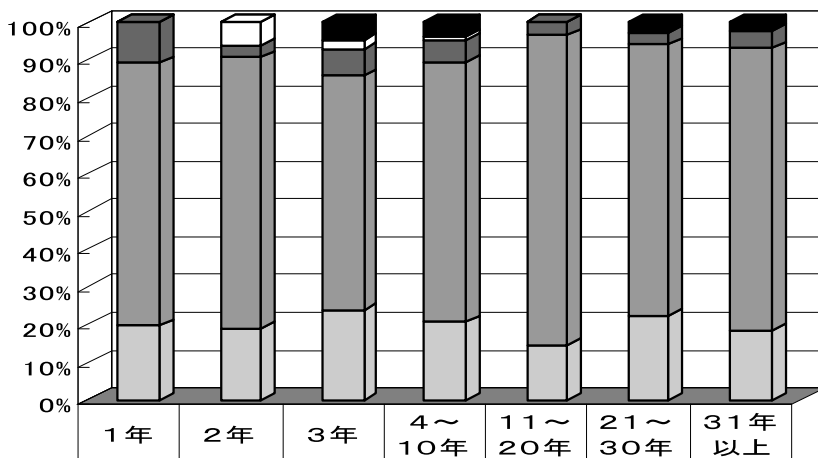
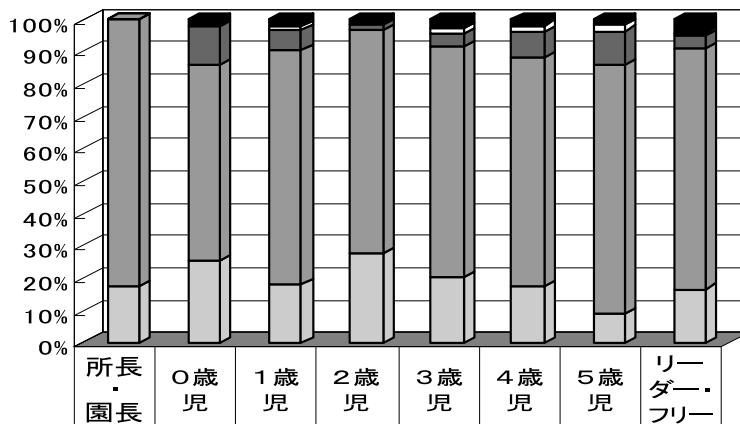


図9 勤続年数とエプロンシアターの必要性



エプロンシアターは保育教材として必要であると考えていることがわかる。1年目の保育士の10.9%が、エプロンシアターは保育教材としてほとんど必要ないと考えているが、各年代においてエプロンシアターの必要性に対する意識には、ほとんど差異が無いという結果であった。

図10 担当クラスとエプロンシアターの必要性



(3) 担当クラスとエプロンシアターの必要性との関係

担当クラスとエプロンシアターの必要性（図10）から、すべてのクラス担当保育士の85.0%以上が、エプロンシアターは保育教材として必要であると考えていることがわかる。特に、所長・園長は必要であると回答したのが100.0%であるという結果であった。0歳児担当保育士においては11.6%（5人）、5歳児担当保育士においては12.5%（7人）が、ほとんど必要ない、必要ないと回答しているという結果であった。しかし、どのクラス担当保育士においてもエプロンシアターの必要性に対する意識には、ほとんど差異が無いという結果であった。

(4) エプロンシアターの子どもに対する効果

「子どもにとってエプロンシアターにはどんな効果があると思いますか」という問に対して、次の17項目の中から効果の高い順に5項目を選択してもらった。

選択された結果に対して、1位5p、2位4p、3位3p、4位2p、5位1pを付加して得点を算出したところ、最も得点の高かったのは、5A項目1578pという結果であった。そして、5D項目1388p、5C項目837p、5B項目817p、5H項目633pと続き、最も得点の低かったのは、5P項目3pという結果であった。

5 A. 物語・歌などへの興味を養うことができる。(1578p)

5 B. 模倣活動を楽しみ、ごっこ遊び・劇遊びにつなげることができる。(817p)

5 C. エプロンシアターの人形を擬人化し、自分と同化することで、物語の世界を楽しむことができる。(837p)

5 D. エプロンシアターを使うことで、物語・歌などの内容や面白さを楽しむことができる。(1388p)

5 E. 子どもと保育士との信頼関係を築くことができる。(365p)

5 F. 子どもの感受性を養うことができる。(573p)

5 G. 子どもの創造力を養うことができる。(275p)

5 H. 子どもの想像力を養うことができる。(633p)

5 I. 子どもの道徳性を養うことができる。(69p)

5 J. 子どもの思考力を養うことができる。(199p)

5 K. 子どもの自発性を養うことができる。(36p)

5 L. 子どもの表現力を養うことができる。(285p)

5 M. 子どもの情緒を安定させることができる。(302p)

5 N. 子どもの情操教育になる。(139p)

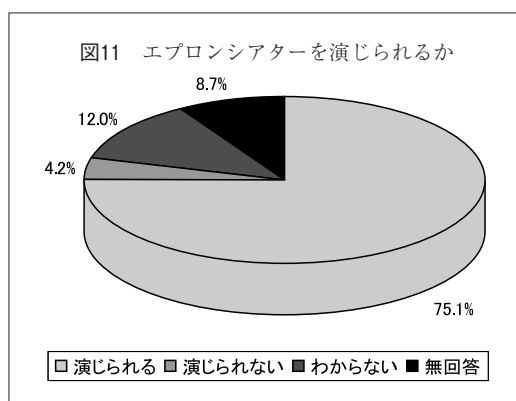
5 O. 子どもの言葉の発達につながる。(272p)

5 P. 効果はない。(3p)

5 Q. その他(2p)

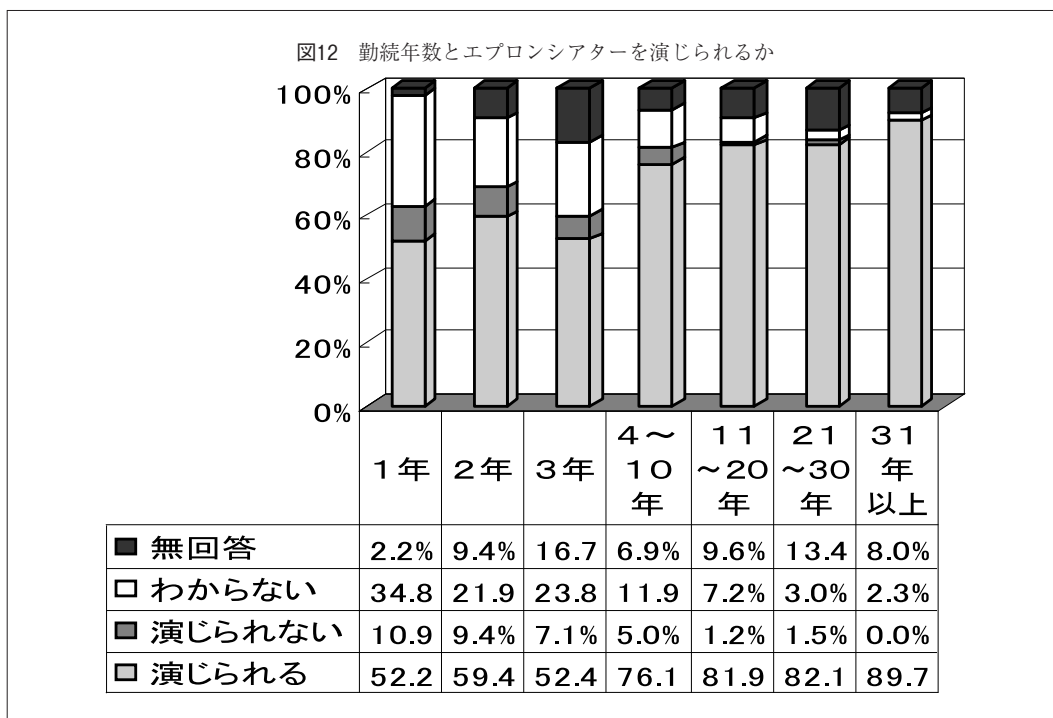
(5) エプロンシアターを演じるられるか

「エプロンシアターが演じられますか」という問に対して、演じられると回答したのは75.1%（432人）、演じられないと回答したのは4.2%（24人）であり、わからないと回答したのは12.0%（69人）という結果であった。



(図11)

勤続年数とエプロンシアターが演じられるか(図12)から、4年目以上の保育士は80.0%以上が演じられると回答し、1年目・2年目・3年目の保育士が演じられると回答したのは約半数であるという結果であった。エプロンシアターを演じられない割合は、どの年代も極少数であるものの、1年目・2年目の保育士の約10.0%が演じられないと回答しているという結果であった。さらに、1年目の保育士の34.8%、2年目・3年目の保育士の約20.0%がわからないと回答しているという結果であった。



「演じることができる理由」という問に対して、次の10項目の中から理由の大きい順に3項目を選択してもらった。選択された結果に対して、1位3p、2位2p、3位1pを付加して得点を算出したところ、最も得点の高かったのは、6B項目1167pという結果であった。そして、6G項目385p、6D項目360pと続き、最も得点の低かったのは、6I項目33pという結果であった。

6 A. 自分自身がエプロンシアターを楽しみたいから。(268p)

6 B. エプロンシアターで子どもを楽しませたいから。(1167p)

6 C. 子どもにとって保育士が身近な存在だから。(125p)

6 D. 子どもがエプロンシアターを好きだから。(360p)

6 E. 自分のエプロンシアターを持っているから。(175p)

6 F. 保育所(園)がエプロンシアターを所有しているから。(99p)

6 G. 保育士がエプロンシアターを演じることで、子どもが物語を身近に感じられるから。(385p)

6 H. 行事の出し物を担当するから。(128p)

6 I. 日常保育の中で、時間が空くから。(33p)

6 J. その他 (8p)

「なぜエプロンシアターを演じることができないのですか」という問に対して、次の7項目の中から理由の大きい順に3項目を選択してもらった。選択された結果に対して、1位3p、2位2p、3位1p、を付加して得点を算出したところ、最も得点の高かったのは、7A項目174pという結果であった。そして、7B項目104p、7E項目98pと続き、最も得点の低かったのは、7C項目31pという結果であった。

7 A. 練習する時間を確保できないから。(174p)

7 B. 演じる場所・機会がないから。(104p)

7 C. 演じることが恥ずかしいから。(31p)

7 D. 台詞を覚えることができないから。(63p)

7 E. 自分も保育所(園)もエプロンシアターを所有していないから。(98p)

7 F. エプロンシアターの演じ方を知らないから。(53p)

7 G. その他 (24p)

また、勤続年数と演じられない理由の関係を調べたところ、1年目の理由は、多い順に7F項目18p、7A項目17p、7E項目16pという結果であった。2年目の理由は、多い順に7A項目24p、7E項目12p、7D項目10pという結果であった。3年目の理由は、多い順に7A項目13p、7B項目12p、7E項目11pという結果であった。

(6) どうしたらエプロンシアターを演じることができるか

「どうしたらエプロンシアターを演じることができると思いますか」という問に対して、次の5項目の中から理由の大きい順に3項目を選択してもらった。選択された結果に対して、1位3p、2位2p、3位1pを付加して得点を算出したところ、最も得点の高かったのは、8A項目631pという結果であった。続いて、8C項目495p、8B項目476pという結果であった。

8 A. 講習会等でエプロンシアターの演じ方を学ぶ。(631p)

8 B. 自分または保育所(園)がエプロンシアターを所有する。(476p)

8 C. 練習時間を確保する。(495p)

8 D. 演じる場所・機会を与えてもらう。(323p)

8 E. その他 (33p)

IV 考察

1 パネルシアターに対する意識調査について

パネルシアターに関しては、人形劇と同様に、保育士はその必要性を認識しているという結果が明らかになった。そして、「保育士による人形劇の実践について(Ⅱ)」(熊田, 2010. a) から人形劇を行う人形の所有率は49.2%であり、今回の結果からパネルシアター所有率は65.7%あった。したがって、保育士は人形よりも16.5%多くパネルシアターを所有していることがわかった。しかし、所有しているのは11年以上の保育士が多く、1～3年目の保育士の所有率は約50.0%であることが明らかになった。これが、そのまま「保育士におけるパネルシアターおよびエプロンシアターの実践について」(熊田, 2010. b) で明らかになった実践回数につながっていると考えられる。

勤続年数とパネルシアターの必要性について、約95.0%が必要であると考えていることが明ら

かになった。したがって、1～3年目の保育士が、パネルシアターは保育に必要であると認識しているが実践していないということは、前述のとおりパネルシアターを所有していないこと、演じられない理由としてあがったように時間的余裕がないことがその一因であると考えられる。

担当クラスとパネルシアターの必要性との関係については、0歳児クラス担当は18.7%、1歳児クラス担当は10.8%がほとんど必要ない・必要ないと考えていることが、「保育士におけるパネルシアターおよびエプロンシアターの実践について」(熊田, 2010. b) で明らかになった0歳児・1歳児担当の実践回数が少ない一因であると考えられる。

パネルシアターによる効果は、ストーリーのある人形劇による効果と同様であることが明らかになった。また、「効果がない」が2ポイントであることもパネルシアターの効果を証明する一因である。

パネルシアターが演じられると回答した保育士は83.8%であり、人形劇よりも19.8%高い割合であった。これは、パネルシアターの所有率が人形の所有率よりも高いこと、11年以上の保育士の実践回数が多いこと、人形劇と比較すると手軽に演じることができることがその要因であると考えられる。また、1年目・2年目の保育士の約20.0%が演じられるかどうかかわからないと回答しているのは、パネルシアターを所有していないこと、パネルシアターの演じ方を知らないことがその要因であると考えられる。

2 エプロンシアターに対する意識調査について

エプロンシアターに関しては、パネルシアターと同様に、90.0%以上の保育士がその必要性を認識していることが明らかになった。しかし、保育士の約半数がエプロンシアターを所有していない。平成20年3月に実施した「保育士における人形劇等の実践に関する調査」の結果から、平成19年度一年間の保育士において実践されたエプロンシアターは111種類であり、その66.7%(74種)が市販のエプロンシアターであることが明らかになっている。したがって、エプロンシアターの取得方法は、その多くが市販されている既製品の購入であると考えられ、それがエプロンシアターを所有していない一因であると考えられる。

さらに、1～3年目の保育士はエプロンシアターの所有率は約30.0%であるという調査結果であった。これが、1年目の保育士が34.8%、2年目・3年目の保育士約20.0%が演じられるかどうかかわからないと回答している原因であり、1～3年目の保育士でエプロンシアターを演じられると回答したのが約半数であるという要因であると考えられる。

勤続年数とエプロンシアターの必要性について、85.0%以上が必要であると考えていることが明らかになった。したがって、1～3年目の保育士もエプロンシアターは保育に必要であると認識しているが実践していない。特に1年目の保育士の76.0%が全く実践していないというのは、調査結果からも明かなように、エプロンシアターを所有していないこと、演じ方を知らないこと、時間的余裕がないことがその要因であると考えられる。

担当クラスとエプロンシアターの必要性との関係については、0歳児クラス担当は11.6%、5歳児クラス担当は12.5%がほとんど必要ない・必要ないと考えていることが、0歳児担当では70.0%、5歳児担当では58.6%の保育士がエプロンシアターを全く実践していないという要因になっていると考えられる。

V 今後の課題

本研究によって、パネルシアターおよびエプロンシアターのいずれも、保育士は保育の中で必要であるということを認識していることが明らかになった。また、本研究の調査によって、子どもに対するパネルシアターおよびエプロンシアターの効果について明らかになった。しかし、現状は、練習する時間を確保できない、演じる場所・機会がない、所有していない、演技方を知らないなどの理由でパネルシアターおよびエプロンシアターは実践されていないのである。そこで、保育士がパネルシアターおよびエプロンシアターを実践するためにはどうすればよいのかを検討することが必要である。

そして、保育におけるパネルシアターおよびエプロンシアターを含めた人形劇の普及方法を探求すると共に、人形劇を保育の中にどのように位置づけていくことができるのかを検討することが今後の課題である。

謝 辞

本研究にあたり、ご協力をいただいた岐阜市福祉部保育事業課および岐阜市内保育所（園）に勤務する保育士の皆様に深謝いたします。

参考文献

1. 久富陽子（編者）：「実習に行くまえに知っておきたい保育実技—児童文化財の魅力とその活用・展開—」、萌文書林、2002
2. 石垣恵美子・玉置哲淳（編著）：「幼児教育課程論入門」、建帛社、1993
3. 古宇田亮順・松家まきこ・藤田佳子：「実習に役立つパネルシアターハンドブック」、萌文書林、2009
4. 熊田武司：「保育士における人形劇の実践について(I)—岐阜市内の保育所（園）に勤務する保育士を対象にした調査から—」、『岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要』第41集、pp87～99、2009
5. 熊田武司：「保育士における人形劇の実践について(II)—岐阜市内の保育士を対象にした人形劇に対する意識調査から—」、『岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要』第42集、pp69～79、2010. a
6. 熊田武司：「保育士におけるパネルシアターおよびエプロンシアターの実践について」、『岐阜聖徳学園大学短期大学部紀要』第42集、pp57～67、2010. b
7. 中谷真弓：「幼児教育におけるエプロンシアターの意義」、『武蔵野短期大学研究紀要』第4輯、pp135～144、1989
8. 日本演劇教育連盟（編集）：「新人形劇入門」、晩成書房、1994
9. 吉田博子・藤田佳子：「幼児教育における児童文化—実習保育所における児童文化の現状について—」、『淑徳短期大学研究紀要』第46号、pp131～143、2007

